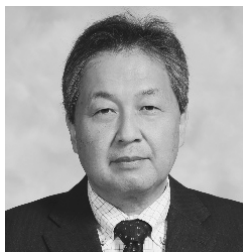


県・社・研・会報



社会科の本質を確かめながら

会長 田所 昭 裕

(山形市立第一小学校長)

コロナ禍の影響で予定していた最北協議会を始め各地区の活動が相次いで中止を余儀なくされた令和2年度、それでも学びを止めないという一心で、第33回山形県社会科冬季研修会を開催した。

今年度は、上智大学の奈須正裕先生をお招きして、「教育課程における社会科の位置と責任」をテーマに話を伺った。新学習指導要領との関わりで、社会科の本質を問い直す必要を感じていたからである。小中7年間の社会科学習を「縦の系統」でのみとらえていなかったか。「教科横断的な横の関連」の視点が欠けていたことに、目を開かされた。後半のグループワークでは、山形大学の江間史明先生にコーディネイトをお願いし、各自の授業実践をもとに「社会科の本質とは何か？」に迫る交流を行った。若い先生方とベテランの先生方が熱心に語り合う姿は圧巻で、本県社会科教育の一層の発展を予感させた。

次年度は、6年ぶりの県大会となる最北大会の開催とともに県内4地区の小中代表による合同研究会がスタートする。山形大学附属小中学校の授業研究会を中心に、オール山形体制で令和4年度からの県社会科研究会の主題と方針を整理することが決まった。山形県小中教育研究会のHPも立ち上がり、授業研究会や研修会の情報共有とともに、社会科研究を志す先生方のネットワークも活性化しそうだ。

例年通りの運営ができなかった分、本県社会科研究の足もとを固めた一年であった。このような状況下でも真摯に研鑽を積まれた先生方、最北協議会を推進された先生方、そして縁の下の力持ちとして尽力いただいた事務局の先生方に改めて感謝申し上げます。今後の山形県社会科研究会の取り組みに、乞うご期待！

(最後に私事になりますが、長年に渡って本研究会で学ばせていただいたことに、心より感謝申し上げます。)

研究成果の継続・充実を目指して

最北大会実行委員長 門 脇 潤

(新庄市立日新中学校長)

県社会科研究会の研究協議会担当地区として活動を始めてから早いもので5年目となりました。お任せいただいている6年間の大詰めの時期を迎え、これまでの研究成果の一端を発表し、全県の先生方よりさらなるご指導を頂くことを楽しみにしておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症が広い範囲に拡大したことを受け、本地区としましても感染防止の観点からやむなく開催中止とさせていただきました。会場校として意欲的に研究を進めていただきました新庄市立萩野学園の先生方には感謝を申し上げますと同時に、心よりお詫び申し上げます。また、講師をお願いしておりました山形大学大学院の森田智幸准教授にも重ねてお詫び申し上げます。

改めて振り返れば、最北地区として4年以上に渡って積み重ねてきた多くの研究成果があります。今年度の各校での地道な研究実践も加え、来年度にはさらに充実した成果を発表できますよう研究に取り組んで参ります。

令和2年度 情報交換・各地区活動状況

【山形地区】

〈小学校部会〉

9月16日 やまぎん県民ホール 見学

11月11日 授業研究会

・授業者：山形市立南小学校 奥山 春輝教諭
3年「火事からくらしを守る」

12月4日 講演「どの子も活躍できる

社会科の授業デザイン」

講師 国士舘大学教授 澤井 陽介 氏

〈中学校部会〉

今年度は新型コロナウイルスのために、予定していた授業研究会及び実践発表会は実施できなかった。

10月13日(火)に、市内各校の代表が集まり、山形市教育研究会社会科部会代表者会を開催し、前年度の東北大会・県大会の報告及学習会と予算執行についての話し合いを行った。

【最上地区】

今年度は、北村山地区との合同による県社研担当地区としての研究が5年目を迎え、最上地区において研究協議会の準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症予防のため開催を中止とした。

7月1日(水) 地区社会科部会役員会①

10月29日(木) 地区社会科部会役員会②

【米沢地区】

〈小学校部会〉

5月 部会：紙面で組織や活動計画を確認

8月・11月に予定の研修は中止

〈中学校部会〉

5月 部会：紙面で組織や活動計画を確認

8月に予定のフィールドワークは中止

1月19日 講話：新学習指導要領に基づいた社会科指導

講師：置賜教育事務所 平賀正和指導主事

【東村山地区】

5月7日 東村山学校教育研究会社会科部会紙面による提案・報告

11月11日 「これからの社会科教育について」

講師：山形県教育庁高校教育課指導主事

阿部 真直 氏

高等学校の学習指導要領改訂のポイントを踏まえ、小中高接続の重要性を、具体的な例をもとに解説。

【田川地区】

5月7日 第1回田川学研社会科部会

12月末 児童生徒の研究集録の発刊

1月19日 第2回田川学研社会科部会

※部会は開催せず紙面にて内容を確認した。

・「社会科巡検」・中学校社会科授業研究会

・授業づくり研究会

※以上の取り組みは、今年度中止した。

【北村山地区】

今年度は、最上地区との共同研究5年目（「よりよい社会を形成していく力を育てる社会科学習」）で、来年度、北村山地区で県社研最北協議会の本発表が行われる予定である。

5月7日 社会科部会総会（紙面開催）

11月10日 社会科部会研修会（神町中）

・神町中2年高橋匠教諭 「開国と幕府の終わり」

・国士舘大学・澤井陽介教授による講話

→次のページで詳しく紹介しています。

【飽海地区】

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、夏季休業中の社会科巡検と小中学校それぞれで授業研究会はすべて中止とした。それに代わるものとして、市教委のファイルサーバーに、それぞれの学校で行った校内授業研の指導案をアップしてお互いの研修とする取り組みを行った。

【上山地区】 【西村山地区】 【西置賜地区】 は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、すべての活動が中止となりました。

よりよい社会を形成していく力を育てる社会科学習

北村山地区教育研究会社会科部会授業研究会(R2.11.10)より

来年度、本地区において山形県社会科研究会最北協議会の本発表（テーマ：「よりよい社会を形成していく力を育てる社会科学習」）が行われる予定もあり、小・中の教員54名が参加し研修を深めました。前半は神町中学校2年生の歴史（高橋匠教諭「開国と幕府の終わり」）を参観し分科会が行われ、後半は国士舘大学の澤井陽介教授の講話を拝聴しました。

澤井先生からは冒頭、「過去から現在を学ぶ事で、社会参画の意識を育てることが社会科の目的である。小学校では歴史の転換ポイントを見るのに対し、中学校では歴史の転換ポイントをつなげて1つの時代の特色を描く形になっている。中学校では未来のことを知っているの、当時の状況に身を置いて考えることが大事である。」とのお話があり、高橋教諭の授業について代案を示しながら、授業のポイントについてお話がありました。

単元計画（高橋教諭指導案）	単元計画（澤井先生代案）
これからの日本の方向性は？ ～緊急大名会議～ 開国や攘夷が日本に与える影響を、「日本経済」「世界情勢」「国民の生活」「朝廷との関係」の4観点でそれぞれ調べ学習を行う。（本時）	開国により日本はどのように変わっていったのだろうか！ 日本はなぜ開国したのか、「世界情勢」「日本経済」「国民の生活」「技術・軍事力」「文化」などどんな視点で調べてくのかを考える。（本時）
調べた内容を持ち寄って、これからの日本の方向性を検討する。また、自分の考えをまとめる。	その後日本はどんな改革を行ったのか、前時の視点に基づき調べる。
大名会議の振り返りと、その後の日本は実際にどうなっていったのかを資料を基に確認する。	日本の社会はどのように変わったのかを検討する。

【課題について】 課題の中には、真の課題が隠されていなければならない。例えば「今の日本は豊かだろうか」には「本当の豊かさとは何か」、「コロナ禍は経済を優先すべきか」には「コロナ禍で何を大切にすべきか」という真の課題が隠されている。「鎖国か開国か」2つに分かれての話し合いではなく、「なぜ開国したのか考えてみよう」と問う方が対話的な学びに繋がっていく。

【グループ活動について】 グループ活動では、①どんな結論になったかを教えて！ ②どんな話し合いが行われたかを教えて！ です。グループ活動にはミッションがあります。それぞれで出てきた小さな結論を、教師がまとめて大きな結論をつくることです。

【板書について】 黒板を見て社会構造が見えるようにしたい。また、板書には生徒の発言を価値づける意味もある。板書は授業のプロセスそのものである。

【評価について】 指導したことを評価しなければいけない。「B」か「A」かは授業後にじっくり評価できるが、「C」は授業中に即時に判断し「B」にするための支援を行わなければならない。

【振り返りについて】 「主体的に学習に取り組む態度」を育むためには、質の高い振り返りが必要。自分の成長（始めと最後を比較して）や友達への共感、次の学習の見通しや将来への意思表示（生活への反映）、さらには学習課題を超え教科の本質に迫る振り返りができるように自分の言葉で振り返ることで、学習に向けた主体性が養われる。

第33回 冬季研修会報告

12月28日、山形国際交流プラザにおいて、第33回冬季研修会を開催しました。今回は、奈須正裕先生（上智大学総合人間科学部教育学科教授）よりご講演をいただきました。その後、奈須先生のご講演をお聞きし「大事そうだけど、よくわからない」ことをグループごとに話し合い、そこで出された質問に対しさらにコメントをいただきました。後半の話し合いでは、江間史明先生（山形大学大学院教育実践研究科教授）からアドバイスをいただき、社会科の魅力を改めて考えることのできる会となりました。

【奈須正裕先生のご講演『教育課程における社会科の位置と責任』から】

【教育課程について】

- ・子どものための教育課程にしていく。（子ども→教育課程→各教科等→各教科等の内容）
- ・「持続可能な社会の創り手」となることができるよう、幼稚園から高校までの縦の教育課程で育てていく。

【教育課程編成（カリキュラム・メーキング）について】

- ・カリキュラムをつくることは、マネジメントを含む。カリキュラム・マネジメントは、カリキュラム評価。
- ・評価とは、目標論・内容論・方法論がうまくいったかを、教師が、学校が、国が、自分たちを評価する。
- ・形成的評価もあるが、子どもがうまく学べないとしたら、カリキュラムに問題がある。
- ・学級経営はカリマネ。教師が目標を決め、内容をつくり、方法をつくり、随時評価をして改善し続ける。

【社会科について】

- ・社会科は素敵な教科。まだ見ない素敵な世界との出会いを生み出していくのが社会科。
- 子どもが、自分ももっている世界とは違う素敵な世界が世の中には山ほどあることを知る。
- 丁寧に物事を見て、公正に判断し、人権を擁護するなど、包摂的な社会になっていく。
- ・社会科をなぜ学ぶのか。社会科がないと、誰がどう困るのか。子どもの人生にどんな意味があるのか。社会は変化しているが、それは20年前と今と同じなのか。そう考えると社会科の本質が見えてくる。
- ・社会科が与える武器は何か。社会科が扱うのは社会事象。どういう切り込み方をしていくのか。その切り込み方をすることが、子どもたちにどんな力を与えて、彼らの人生をどう支えるのか。それが教科の見方・考え方

【見方・考え方について】

- ・「見方・考え方」は、その教科等の本質。各教科等ならではの、対象に対する迫り方がある。
- ・社会では、「多面的・多角的な見方」「多様な方法を組み合わせる」「視点を移動して」。
- 社会科で初めて売り手の側から見ると、スーパーの陳列の景色が違う意味で見える。
- 買い手と売り手の立場を行ったり来たりしながら、お店について考える。
- 「お店は、売り手のためにも、買い手のためにも、社会のためにもある。」と考えられる。
- ・社会科固有の知識・技能を統合・包括する中核概念。
- 「公正」、「立地条件」、「環境負荷」、「三方よし」など。
- 毎時間の授業で教えるコンテンツはつながっている。コンテンツが「見方・考え方」に上がっていき、さらにそこで獲得した「見方・考え方」が汎用性をもつというように上がっていく。
- 教師は、系統的に明示的に教える。子どももそれを獲得してそれを武器にして次のコンテンツに挑む。
- 例えば、「条件」。一つの地理的なものを見て、仮説を立て、検証する方法を繰り返し教える。
- 多様な経験が、同じ原理の異なる現われであるということが理解されたときに概念になる。
- ・子どもたちの「素朴概念」としての「見方・考え方」を、授業で「科学的概念」へと「鍛えていく」。
- 幼稚園の子どもも、多角的な見方をしようとしているがまだ弱い。それを社会科できっちりとする。
- 「見方・考え方」を意識した授業をすると、子どもたちがもっていたものを「働かせて、鍛えられる」。
- 教えるのではない。彼らがすでにどんな見方・考え方の芽をもっているか、それをよく見て、学年ごとにこんな教材、こんな指導、こんな場面でこう鍛えていこうと考えるのが大事。

【資質・能力について】

- ・乳幼児（子ども）は有能な存在。有能な学び手。もっと有能になろうとしている存在。
- ・資質・能力とは、問題解決がよくできること。
- ・問題解決では知識がないと問題解決できないが、知識をもっているだけではだめ。それが自在に使える状態になっていること、少ない知識でも使える知識をもっていることが大事。これまでは、使えない知識を膨大にもつことになっていた。細かいことは、スマホ、パソコンでいつでも引っ張り出せる。これからは、細かい知識ではなくて、中核概念によって統合化された知識にしていく。
- ・自在に活用が効く状態になっている知識が思考力。知識を組み合わせ、場面に合わせ使えるかが大事。
- ・学びに向かう力がある子は、この場面ですればいいのかということを考えて、自分の感情を自己調整できる。自己調整するのは、自己調整するスキル。意欲は、本来は知識やスキル。感情状態ではない。



編集・発行：山形県社会科研究会
事務局 〒990-0023
山形県山形市松波二丁目7番3号
山形大学附属中学校内
TEL023-641-4440
FAX023-641-4441